MS-Wordによる研究論文作成ガイド

*How to Typeset Your Research Papers in MS-Word*

日本セキュリティ・マネジメント学会 真根地　太　郎

 Japan Society of Security Management Taro MANEJI

日本安全管理学会　　　世　　久　　一

　　Japan Safety Management Society Hajime SEKU

日本セキュリティ大学　 　 瀬　弓　理　亭

Japan Security University　 　Ritei SEKYU

日本マネジメント大学　　　間　音　太一郎

　　　　　Japan Management University Taichiro MANE

要　旨

　ここに和文要旨を600～800字程度でご記載ください．フォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．原稿は「……である」調の文体で，なるべく当用漢字を用い，新仮名遣いによってご記載ください．

キーワード

　和文キーワード，JSSM，セキュリティ，マネジメント，原稿全体の内容の特徴を示すものを3～6個

1. はじめに

ここから，1章，2章，・・・の順で論文の本文を執筆していきます．章の本文のフォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．本文は，章・節・項の区分を明確にし，それぞれ番号をつけてご記載ください．

研究論文，研究ノートは，学術，技術，実務上の研究あるいは開発成果の記述であり，新規性，有用性，正確性を有するものを指します．両者の違いは，研究論文が新規性と有用性をともに有し，研究ノートは新規性あるいは有用性のいずれかを有する点にあります（正確性を有する点は研究論文も研究ノートも同じです）．研究論文，研究ノートには，学術研究と実務研究の分類があります．学術研究の信頼性は，基本的に，証明・実験等によって示される形になります．実務研究においては，分析・論述等によって示される形になります．研究論文にはサーベイ論文（学術的あるいは実務的な課題に関する既存の研究成果を網羅的に調査し，その結果をある観点のもとに体系付け，まとめ上げて紹介するもの）を含みます．

1. 章の書き方

章が変わるときは，その前の段落の最後を１行あけます．章題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．

本文では，参考文献を適切に引用し，当論文の研究上の位置づけ，主張の概要などを明記してください．

* 1. 節の書き方

節が変わるときも，その前段落の最後を1行あけます．節題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．

節の本文のフォントはMS明朝10Pです．英数字についてはCentury10Pを使ってください．以下適切にご記載ください．

* + 1. 項の書き方

項が変わるときも，その前段落の最後を1行あけます．項題のフォントはMSPゴシック10.5Pです．英数字についてはCentury10.5Pを使ってください．以下適切にご記載ください．

* 1. 章題・節題・項題が連続する場合
		1. 章題・節題が連続する場合

章題の直後に節題が続く場合は，章題と節題との間は１行あける必要はありません．

* + 1. 節題・項題が連続する場合

節題の直後に項題が続く場合も，節題と項題の間を1行あける必要はありません．

1. 図表を掲載する場合
	1. 図を掲載する場合

図の下に「図1　〇〇〇」という形で図題を記します．図の中の文字は，読者の判読が容易となるフォントサイズをお使いください．

図1　図の掲載例

* 1. 表を掲載する場合

表の上に「表1　〇〇〇」という形で表題を記します．表の中の文字は，読者の判読が容易となるフォントサイズをお使いください．

表1　表の掲載例

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

1. 脚注がある場合

用語や補足説明の脚注がある場合は，本文中に[[1]](#footnote-1)という形式で付記し，該当ページの下部に注記をご記載ください．

1. 参考文献

参考文献をつける場合は，本文中に[1]という形式で付記して下さい．参考文献一覧については，謝辞の後に，筆者のアルファベット順，年代順に掲げます．記載事項は下記の参考文献の例をご参照ください．

1. まとめ

論文の内容に応じて，章・節・項は必要に応じて追加してください．最後の章には，まとめを書きます．

謝辞

謝辞がある場合は，ここに記してください．

参考文献

1. （和雑誌の場合）

執筆者名，「題名」，『雑誌名』，〇巻〇号，発行年月，引用頁．

1. （洋雑誌の場合）

執筆者名，“題名”，*雑誌名（斜体）*，Vol.〇，No.〇，発行年月，引用頁．

1. （和書籍の場合）

著者名，『書名』，出版社名，発行年月，引用頁．

1. （洋書籍の場合）

著者名，*書名（斜体）*，出版社名，発行年月，引用頁．

1. （Webサイトの場合）

サイト名，URL，参照年月．

1. 安心太郎，『情報管理』，JSSM出版，1999年2月．
2. Bel,E., *Safety Strategy*, The JSSM Press, Mar.1991.（安光，全野訳，『安全の戦略』，ルビー社，1993年4月．）
3. Emmery,J.C.,“The Function of IRM”, in Henshamei,T. (ed.), *Historical Process of MIS,* JASMIN Press, Mar.1922, pp.123-185.
4. 新俳章，「セキュリティ管理」，『日本セキュリティ・マネジメント学会誌』，11巻11号，1998年3月，25-30頁．
5. Mikee,F., ”The Security Revolution”, *Journal of Security,* Vol.5, No3, Feb.1995, pp.56-78.
6. The Twenty Most Critical Internet Security Vulnerabilities, http://www.sans.org/top20.htm, Sep.2018．

（受付日：200○年○月○日）

（採録日：200○年○月○日）

著者略歴

真根地 太郎（まねじ・たろう）

1979年，〇〇大学工学部電気工学科卒業．1981年，○○大学大学院工学研究科修了．同年～現在，（株）MNJ通信システム研究所．アクセス制御の研究に従事．日本セキュリティ・マネジメント学会理事．

世久 一（せく・はじめ）

1985年，〇〇大学情報学部卒業．1987年，同大学院情報学研究科修了．1987年～現在，HSK㈱安全管理センターに勤務．日本安全管理学会常任理事．日本セキュリティ学会会員．

瀬弓 理亭（せきゅう・りてい）

1993年，〇〇大学法学部卒業．1993年～2005年，SKR株式会社にて法務・監査の業務に従事．2005年～現在，日本セキュリティ大学教授．

間音 太一郎（まね・たいちろう）

2000年，〇〇大学経営学部卒業． MKT株式会社にて経営コンサルタントの業務に従事．2015年～現在，日本マネジメント大学准教授．

1. ここに脚注を記載します． [↑](#footnote-ref-1)